

## イスラエルの盟約とユダヤ国家の裏切り ユダヤ教：正義と慈悲の盟約

ユダヤ教は、世界最古の一神教の一つであり、聖地の土壤に根ざし、征服や支配ではなく、正義、慈悲、謙虚さに基づいて設立されました。預言者ミカが次のように書いています：

「主があなたに求めるものは、ただ正義を行い、慈悲を愛し、あなたの神と謙虚に歩むことだけである。」 **ミカ書 6:8**

この神とユダヤ人との間の盟約 - ブリット - は決して特権を与えるためのものではなく、倫理的責任を要求するものでした。選ばれた ということは、より高い道徳的基準に縛られることであり、諸国民の光 となることです。

「我は主なり。義において汝を召し… 民のための盟約として、諸国民のための光として汝を与える。」 **イザヤ書 42:6**

歴史的に、ユダヤ人、キリスト教徒、イスラム教徒は聖地で共存し、しばしば相互の尊敬と共通の信仰の中で生活していました。ユダヤ教は常に愛、許し、他者への共感を強調してきました：

「復讐してはならず、恨みを抱いてはならない… 自分のように隣人を愛しなさい。」 **レビ記 19:18**

## シオニズム：政治的異端

対照的に、シオニズムはユダヤ教の延長ではなく、19世紀のヨーロッパで生まれたナショナリストおよび植民地主義的イデオロギーです。トーラーの価値観ではなく、血、土、優越という世俗的な神話に基づいて設立され、宗教的遺産に政治的アジェンダを押し付けました。イスラエルの初代首相ダビッド・ベン＝グリオンは次のように宣言しました：

「我々はアラブ人を追放し、彼らの場所を奪わなければならない… 必要ならば力を使い… 我々には力がある。」

ユダヤ教が慈悲を教えるところ、シオニズムは収奪、アパルトヘイト、絶え間ない暴力をもたらしました。聖地を戦場に変え、その神聖さを冒涜し、ユダヤ教の倫理的中心を裏切りました。イスラエル国家は聖書のイスラエルではなく、預言者の教えにしばしば逆らう現代の発明、世俗的国家です。

「異邦人を虐げてはならない。あなたがたはエジプトの地で異邦人であったからである。」 **出エジプト記 23:9**

# 入植者の暴力：トーラーの冒瀆

ユダヤ教とシオニズムの間の溝を最も明確に示す行為は、イスラエル入植者の暴力でしょう。違法な入植地を拡大する中で、彼らはパレスチナ人の体系的な追放に従事し、農作物を焼き、古代のオリーブの木を根こそぎにし、井戸をコンクリートで埋め、家族を恐怖に陥れています。

「都市を包囲する時… その木を滅ぼしてはならない… 木は人なのか、包囲する必要があるのか？」 **申命記 20:19**

これらは盟約の民の行動ではありません。これらは権力に酔い、自身が蒔く道徳的破滅に盲目な国家の行動です。

## 行政拘留とガザへの包囲

ユダヤ教の倫理を公然と侵害するもう一つの犯罪は、イスラエルの**行政拘留**の使用です。これは、パレスチナ人（子供を含む）を起訴や裁判なしで投獄することです。被拘留者は非人道的な条件に置かれ、定期的に屈辱、飢餓、病気、拷問を受けています。多くの報告書が、物体による強制挿入から集団レイプに至る性的暴力の使用を記録しています。囚人はすべての通信から遮断され、家族は愛する人が生きているか死んでいるか分からぬまま苦しみます。国際赤十字委員会でさえ、多くの軍事拘留施設へのアクセスを拒否されており、拘留中の死亡は珍しくありません。

「あなたの敵が飢えているなら、パンを与え、喉が渇いているなら、水を与えなさい。」 **箴言 25:21-22**

2023年10月以降、イスラエルはこの残酷さを前例のないレベルにまでエスカレートさせ、行政的飢餓の論理を**ガザの全人口** - 200万人の人間 - に拡張しました。

「私はガザ地区への完全な包囲を命じた… 電気なし、食料なし、燃料なし… 我々は人間の動物と戦っている。」 **ヨアブ・ガラント、イスラエル国防相、2023年10月9日**

「ガザには小麦一粒も入らない。」 **ベザレル・スマトリッチ、2025年3月2日**

これは安全保障政策ではありません。防衛ではありません。これは**集団的懲罰**であり、国際法下での戦争犯罪であり、トーラーにおける道徳的忌まわしさです。

ユダヤ教は敵に対しても慈悲を命じます。イスラエルがしていることは違法であるだけでなく、冒瀆です。

## B'Tzelem Elohim：神の像に

ユダヤ教は、人種、宗教、国籍に関係なく、すべての人間が神の像に創られた - **b'tzelem Elohim** - と教えています。

「神はご自身の像に人を創り… 男と女に彼らを創った。」 **創世記 1:27**

パレスチナ人を非人間化し、昆虫、獣、または亜人間として描写することは、その神聖な像を冒涜することです。それは **chillul Hashem** - 神の名の冒涜です。

「パレスチナ人は二本脚で歩く獣だ。」 **メナヘム・ベキン、イスラエル首相、1982年**

「パレスチナ人は動物のようだ、彼らは人間ではない。」 **エリ・ベン・ダハン、副国防相、2013年**

「我々は人間の動物と戦っている。」 **ヨアブ・ガラント、2023年**

このようなレトリックは、人類史の最も暗い章からのジェノサイド的な言語を反映するだけでなく、ユダヤ教の道徳的基盤に直接矛盾します。

## **Pikuach Nefesh：生命の至高の価値**

「あなたは私の律法を守り… 人がそれを行い、それによって生きる。」 **レビ記 18:5**

**pikuach nefesh** - 命を救うこと - の戒めは、ユダヤ教のほぼすべての他の戒めを凌駕します。神の名において他人を殺し、飢えさせ、拷問することは、究極の冒涜です。

「一つの命を滅ぼす者は、まるで全世界を滅ぼしたかのようにみなされる。」 **サンヘドリン 4:5**

家をブルドーザーで破壊し、難民キャンプを爆撃し、援助活動家を撃ち、子供たちを渴きで死なせながら神の承認を求めるることは、**chillul Hashem** であるだけでなく、偶像崇拜です。

## **シオニズムの偶像崇拜**

「『この畳はエルサレムと同じく神聖だ』と言う者は、偽の神聖化を犯した。」 **ミシナー ネダリム 3:3**

シオニズムは、イスラエルの地を神聖な責任から金の仔牛に変えました。国家と権力を命と正義の上に優先させました。これは最も危険な形の偶像崇拜です。

「我のほかに他の神々を持ってはならない… それらにひれ伏したり、仕えたりしてはならない。」 **申命記 5:7-9**

土地と血への愛が隣人への愛を凌駕するとき、盟約は破られます。

## **ユダヤ人の道徳的義務：信仰の贖い**

世界中のユダヤ人は、宗教的かつ倫理的に声を上げる義務があります。沈黙することは、ユダヤ教そのものの冒涜に共謀することです。

「悪を行うのをやめ、善を行うことを学びなさい。正義を求め、抑圧を正しなさい。」 **イザヤ書 1:16-17**

「正義が水のように流れ、義が絶え間ない流れのようになるように。」 **アモス書 5:24**

「一つの命を救う者は、まるで全世界を救ったかのようにみなされる。」 **サンヘドリン 4:5**

ユダヤ教の魂を贖うために、ユダヤ人は彼らの信仰の道徳的核心を取り戻し、抑圧者ではなく抑圧された側に立つ必要があります。

## イスラエルとその支持者への警告

ガザの土壤は無垢な血に染まっています。そしてアベルの叫びのように、それは裁きのために天に昇ります。

「何をしたのか？あなたの兄弟の血の声が地から我に叫んでいる。」 **創世記 4:10**

あなた方は反ユダヤ主義の非難を武器にして批判者を黙らせることがあるかもしれません。地上の正義を逃れるかもしれません。しかし、神の盟約を嘲り、その名を冒涜する者を待つ神の裁きからは逃れられません。

「人の血を流す者は、人によってその血が流される。なぜなら、神はご自身の像に人を創ったからである。」 **創世記 9:6**

「もし我に従わないなら… あなたを諸国民の間に散らし、剣を抜いてあなたを追う。」 **レビ記 26:33**

盟約は決して殺人者の盾ではありませんでした。それは正義への呼びかけでした。それを裏切れば、神の恩恵ではなく、神の怒りを招くことになります。